日本海総合研究プロジェクト国際シンポジウム

多言語化する「地方」

日本の経済成長と経済のグローバル化によって、外国人の大部分をしめてきた在日韓国・朝鮮人や中国人にくわえ、各地の地方都市ではブラジルやロシア、ベトナムやフィリピン、パキスタンなどから移り住んだ人びとが増加し、多民族化が進行している。定住外国人の増加によって、学校や職場、地域社会といったわれわれの周辺で、看板やポスター、行政表示などが急速に多言語していることに気がつく。

地方にこそ顕著である多言語化現象について、D・ロング氏（首都大学東京）をはじめ島村恭則氏（関西学院大学）といった国際的に活躍する研究者を招聘し、エスニックメディアや言語政策の観点から検討し、日本の多言語化の特徴について社会言語学的観点からアプローチしたい。

1部：研究報告（13：30～15：30）

（司会：黒田廉・阿部美規）

日本の多言語化と地方
中井精一（富山大学人文学部准教授）

富山県における多文化共生事業とその特徴
村山麻美（富山県国際・日本海政策課課長補佐）

日本各地に見られる多言語景観　―標準日本語、外国語、そして地域言語―
ダニエル・ロング（首都大学東京准教授）

韓国ソウルの国際化・多民族化に対応する多言語景観
磯野英治（韓国・中央大学助教授）

『民族』としての衆・党・部ー多文化共生を〈我がこと〉とするためにー
島村恭則（関西学院大学教授）

2部：多言語化研究の展望【総合討論】（16：00～17：30）

問題提起 1:後藤寛樹（富山大学留学生センター准教授）
問題提起 2:武田昭文（富山大学人文学部准教授）
問題提起 3:松田真希子（金沢大学留学生センター准教授）
問題提起 4:岸江信介（徳島大学大学院教授）
問題提起 5:松丸真大（滋賀大学教育学部准教授）
問題提起 6:岡田浩樹（神戸大学大学院教授）

主催 ： 富 山 大 学 人 文 学 部
日時：平成 23 年 1 月 8 日（土）13:30　～　17:30

場所：富山大学人文学部６番教室

富山大学人文学部日本語学研究室　中井精一　富山大学人文学部ドイツ言語文化研究室　黒田廉
富山大学人文学部ロシア言語文化研究室　武田昭文　富山大学人文学部ドイツ言語文化研究室　阿部美規
連絡先：930-8555 富山市五福 3190　Tel・Fax：076-445-6204　E-mail：nakai@hmt.u-toyama.ac.jp